

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	アレキサンダー病におけるグリア細胞異常の解剖学的及び分子生物学的解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	アレキサンダー病または脳疾患は無いと診断された方のうち、新潟大学脳研究所において脳組織が保管されており、その試料の研究利用の承諾をいただいている方
③概要	新潟大学脳研究所（ブレインバンク）で保管されているアレキサンダー病患者さんの死後脳組織を用いて、アストロサイトとミクログリア、ミエリンの微細構造と遺伝子発現を生化学・分子生物学的（山梨大学、新潟大学）・解剖学的（自治医科大学、生理学研究所、新潟大学）に解析し、モデルマウスで得られた知見がヒト病態にも当てはまるかどうかを検討します。 研究対象となる方はほん研究に対していつでも拒否する機会があり、拒否しても不利益が生じる事はありません。
④申請番号	C2025-0068
⑤研究の目的・意義	アレキサンダー病は稀少な神経変性疾患で、GFAP 遺伝子の変異が原因です。GFAP 遺伝子は、脳のグリア細胞の一種「アストロサイト」に選択的に発現しています。従って、アストロサイトの異常が本疾患における白質変性や神経症状を引き起こしていると考えられていますが、その分子病態は明らかになっていません。研究代表者らはモデルマウスを使った研究で、（１）アストロサイトの異常な貪食機能が本疾患における白質変性の本態であること、（２）もう一つのグリア細胞である「ミクログリア」が病態を監視し、保護的に働くことを見出しました。そこで本研究では、アレキサンダー病患者さんまたは脳疾患の病歴が無い方の死後脳組織におけるアストロサイトおよびミクログリアの形態と、貪食や保護的機能に係る分子の発現を、解剖学的及び分子生物学的に解析します。これによりモデルマウスで得られた知見がアレキサンダー病患者脳においても同定されうるかどうか検証を行うことを目的としています。本研究によって、アレキサンダー病の病態解明・治療開発への更なる発展が期待でき、医学的にも科学的にも多大な意義があると考えています。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2030 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ	試料は山梨大学、新潟大学、自治医科大学、自然科学研究機構 生理学研究所の4機関で用いられ、染色、電子顕微鏡観察および網羅的遺伝子

提供される場合はその方法を含む。)	発現解析に利用されます。厳重に管理され研究責任者および研究分担者のみが扱える状況とします。試料は個人を特定できないよう加工した状態で研究に利用されます。研究成果は学会や学術誌の発表に使用される場合がありますが、個人を特定できる情報を公表することはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	情報：年齢、性別、診断名、アレキサンダー病患者さんの場合は GFAP 遺伝子変異 試料：死後脳組織
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 【本学研究責任者】 新潟大学脳研究所病理学分野 教授 柿田 明美 【代表機関】 山梨大学医学部 薬理学講座 教授 小泉 修一 【共同研究機関】 自治医科大学医学部 解剖学講座 組織学部門 教授 大野 伸彦 自然科学研究機構 生理学研究所 超微形態研究部門 客員教授 大野 伸彦
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所病理学分野 教授 柿田明美 山梨大学医学部 薬理学講座 教授 小泉 修一 自治医科大学医学部 解剖学講座 組織学部門 教授 大野 伸彦 自然科学研究機構 生理学研究所 超微形態研究部門 客員教授 大野 伸彦
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学脳研究所病理学分野 氏名：柿田 明美 Tel：025-227-0633 E-mail：kakita@bri.niigata-u.ac.jp